

平成27年度情報化施工推進連絡会の開催について

北海道開発局 事業振興部 機械課

1. はじめに

平成28年2月に開催された『情報化施工推進連絡会』の開催概要について報告致します。

情報化施工推進連絡会は、北海道における情報化施工の普及促進に寄与することを目的に、情報化施工に関する情報提供・意見交換等を行っています。

本連絡会は、情報化施工推進戦略と平行して「情報化施工推進検討ワーキング」を平成21年3月に設立し、その後、平成25年3月の「情報化施工技術の一般化」を踏まえ、土木施工会社、建機・レンタル会社、測器・ソフトウェア会社等から構成する「情報化施工推進連絡会」へ移行しました。

2. 開催概要

日時：平成28年2月23日(火) 14:00～16:00

場所：JCMA北海道支部さつけんビル

6階会議室

参加者 50名

(会員会社等36名、事務局9名、報道関係5名)



写1 情報化施工推進連絡会全景

(1) 情報化施工の取り組み状況の報告

北海道開発局と北海道建設部における情報化施工の実施件数、実施状況について報告がされた。

北海道開発局からは、平成20年度以降の直轄工事での実施件数が年々増加している状況や、全国目標よりも北海道はTS出来形計測、

MCモーターグレーダの活用率が上回っている状況、MGブルドーザ・MGバックホウの活用が全国平均よりも多く活用されている状況が報告されました。

また、北海道建設部からは、平成26年4月に今後5カ年の実施方針を策定し、今年度のTS出来形計測の試行工事を行った状況、発注者・受注者からの感想について、「出来形管理作業や写真管理作業の軽減や効率化された」などの報告がなされました。

(2) 「i-Construction」の概要について

平成27年11月24日、国土交通大臣より新たな施策として発表され、その概要について説明がされました。

「i-Construction」は、トンネル工事などに比べ土工やコンクリート工の1人あたり労働生産性が低いこと、依然として多い建設労働災害、将来予想される建設技能労働者の高齢化による大量離職などを背景とし、「①ICT技術の全面的な活用」、「②規格の標準化」、「③施工時期の平準化」の3つを柱とした、建設現場の生産性向上を施策目標としています。

情報化施工に関連する「①ICT技術の全面的な活用」は、UAVやレーザースキャナーによる3次元計測技術を活用し、起工測量や現況測量から、施工途中の施工管理・土量算出、完了検査・出来形計測など、工事の最初から最後まで一貫した3次元データの活用を図り、工事の効率化を進める全体イメージについて説明がされました。

また、UAVやレーザースキャナーによる3次元計測データの導入に当たっては、新たな基準や要領などについて、予定されているスケジュールの見通しや、積算・発注方式の整理、「①ICT技術の全面的な活用」に対する課題などの説明が報告されました。

(3) 情報提供

情報提供として、情報化施工に関連する2件の情報提供がありました。

